

第33卷・第4号 昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和60年4月1日（毎月1回1日発行）

牧草と園藝



草地の整備改良を計画的に推進しよう!!

古くなった草地は生産性が著しく低下しているばかりでなく、栄養価も低く、ミネラルバランスも崩れています。その上、生産量が低いため、コストの高いものになってきています。従って、草地は積極的に、計画的に整備改良(更新)する必要があります。

◎各地域において草地更新の判定基準が示されています。

①道北の鈹質重粘土草地 (天北農試, 1981)

項 目	I 基準値	II 許容値	III 準更新値	IV 要更新値	備 考
pH* (化学性)	6.5~5.5	5.5~5.0	5.0~4.7	4.7以下	3項目のうち、どれか1項目がIVに該当すれば要更新。2項目がIIIに該当すれば要更新。
固 相 率 (物理性)	36~40%	41~46%		46%以上	
主要草種割合 (植 生)	81%以上	80~61%	60~41%	40%以下	

※ pHは0~5cm土層の測定値

(高尾, 1984)

②植生からみた採草地の更新指標(根釧農試, 1983)

- i) 不良植生割合(ケンタッキープルーグラス・レッドトップ および広葉雑草の冠部被度と裸地割合の合計値)が30%以上の草地は更新する。
- ii) 不良植生割合が10%未満の草地は、原則として更新しなくともよい。施肥量の増加で増収が期待できる。

本指標を使用するに当たっての留意点

不良植生割合が10%未満の草地であっても、次のような場合には、それぞれの対策が必要である。

- i) 土壌(0~5cm)のpHが診断基準値より低い場合(5.5未満の場合)……マメ科草割合が低いと予想される。この場合、施肥水準が低いと低収である。マメ科草を回復させて、少肥で高収をねらう場合には、更新することを考えてみる。
- iii) 排水不良、地形上の問題……十分な草地の維持管理ができなくなるので、高収を望みにくい。排水対策や基盤整備を検討する必要がある。

③牧草地の診断指標(岩手県)

項 目	配点	採 草 地					放 牧 地					備 考
		20点	40	60	80	100	20点	40	60	80	100	
1. 草 生 密 度												①平均点 30点以下 は更新の 要あり ②平均点 40点は要 注意草地 とする
1) 株数 株/m ²	10	20	30	40	50	20	35	50	75	100		
2) 裸地率 %	80	60	40	30	20	60	45	30	20	10		
2. 利用年数(年)	20	15	10	5	3	20	15	10	5	3		
3. 草 種 構 成												
1) イネ科率 %	50以下	51~60	61~70 96以上	71~75 86~95	76~85	40以下 96以上	41~50 91~95	51~60 81~90	61~65 76~80	66~75		
2) 雑草率 %	50	30	10	5	0	50	30	10	5	0		
3) イネ科中 短草草種	60	40	30	20	10	80	60	50	40	30		
4. 収量 kg/10a	2,000 以下	3,000	4,000	5,000	6,000 以上	2,000 以下	2,500	3,000	3,500	4,000 以上		